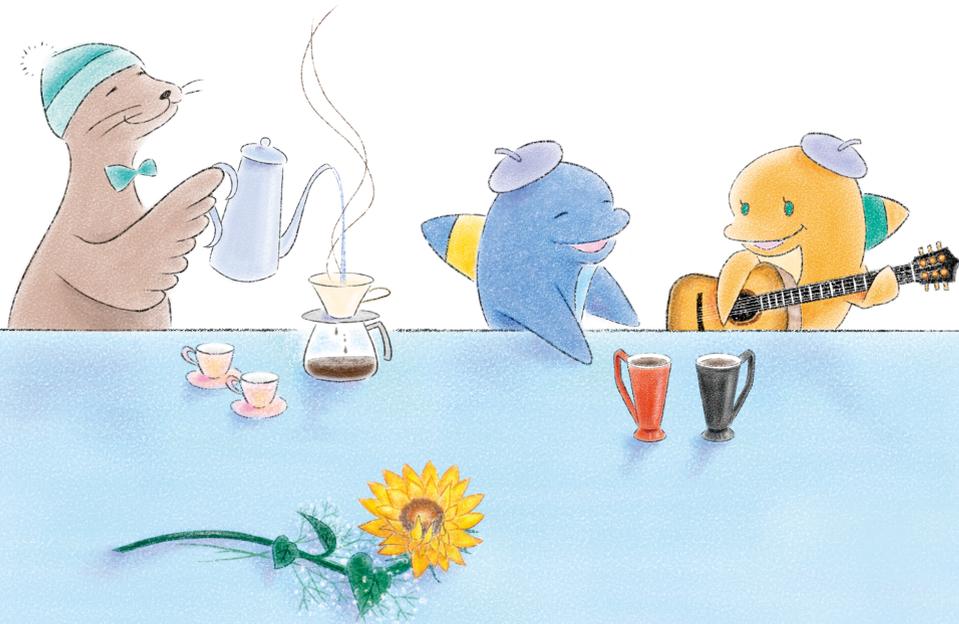


機関紙「福岡更生保護」別冊

第74回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

入賞作文集



法務省

“社会を明るくする運動”福岡県推進委員会



本誌は一部共同募金の配分を受けてできたものです。

はしがき

法務省が主唱する“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築こうとする全国的な運動です。

昭和26年に始まり、本年で74回目を迎えました。

“社会を明るくする運動”作文コンテストは、次代を担う小・中学生の皆さんに、日常の家庭生活、学校生活等の中で体験したことを基に、犯罪や非行に関して考えたことや感じたことを生き生きと作文に書いてもらうことを通して、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的としており、今回で32回目となります。

本年は、福岡県内において46,835点（小学生21,063点・中学生25,772点）となる多数の応募があり、過去最多の応募であった昨年をさらに上回る結果となりました。

応募作品については、県内各保護司会の選考を経て、福岡県推進委員会において審査した結果、小学生の部11点、中学生の部11点について福岡県推進委員会委員長賞を始めとする入賞作品を決定しました。

本作文集は、これらの福岡県入賞作品を収録したもので、一人でも多くの人に作品を読んでいただき、児童・生徒の皆さんの思いを犯罪や非行のない地域社会づくりに役立ててもらうとともに、これから応募される児童・生徒の皆さんの参考になればとの思いで作成しております。

結びに、本コンテストの実施に当たり、御後援をいただいた福岡市教育委員会、北九州市教育委員会、西日本新聞社を始め、多大な御尽力をいただいた更生保護関係者、学校関係者及び最終審査選考委員の皆様、そして、応募していただいた小・中学生やその御家族に対し、深く感謝申し上げます。

法務省

“社会を明るくする運動” 福岡県推進委員会

目 次

福岡県推進委員会入賞作品

【最優秀賞】

福岡県推進委員会委員長(福岡県知事)賞(小学生の部)

社会を明るくする運動……………北九州市立中井小学校 6年 原^{はら} 尾^お 颯^{そう} 真^ま 4

福岡県推進委員会委員長(福岡県知事)賞(中学生の部)

「暖かい」社会をつくるために…北九州市立中原中学校 3年 村^{むら} 井^い 莉^り 央^お 6

【優秀賞】(小学生の部)

西日本新聞社賞

きれいにすることで……………福智町立市場小学校 6年 伊^い 藤^{とう} あん^{あん} 莉^り 8

言葉の力……………福岡市立博多小学校 6年 土^ど 肥^ひ あい^{あい} な^な 10

福岡県保護司会連合会会長賞

親切はまわる……………八女市立忠見小学校 6年 牧^{まき} ぐち^{ぐち} えい^{えい} と^と 12

私心ががけること……………福岡市立那珂小学校 6年 長^{なが} 島^{しま} かおる 14

福岡県更生保護協会理事長賞

思いやりの心……………福岡市立月隈小学校 6年 むけ^{むけ} だ^だ 田^た ゆ^ゆ い 16

相手のことを考える……………大川市立田口小学校 6年 古^こ 賀^が 千^ち と^と せ^せ 18

福岡県更生保護女性連盟会長賞

ラジオ体そうから始まる
地域のきずな……………北九州市立鴨生田小学校 6年 おお^{おお} 井^い ひ^ひ な^な こ^こ 20

ネットの使い方……………大牟田市立三池小学校 6年 まつ^{まつ} 松^{まつ} 尾^お 悠^{ゆう} しん^{しん} 臣^{しん} 22

福岡保護観察所長賞

心の支えがなくなぐ世界……………遠賀町立広渡小学校 6年 まつ^{まつ} 下^{した} み^み さき^{さき} 24

「語先後礼」のパワー……………鞍手町立剣南小学校 5年 いし^{いし} 橋^{はし} 知^ち ひろ^{ひろ} 紘^{ひろ} 26

【優秀賞】(中学生の部)

西日本新聞社賞

孤独をつくらせない社会へ……………北九州市立守恒中学校 1年	よこみつ 与古光	り 莉	な 夏	28	
負の連鎖を乗り越えて……………北九州市立早軀中学校 3年	ない 内	とう 藤	り 琳	おん 音	30

福岡県保護司会連合会会長賞

「犯罪や非行やイジメをなくすため 今の私にできること」……………福岡市立城南中学校 1年	なが 長	た 田	さ 桜	ゆき 侑	32
社会を明るくする為には 何をすべきか……………大川市立大川桐英中学校 1年	さだ 貞	かり 莉	そう 颯	た 汰	34

福岡県更生保護協会理事長賞

特殊詐欺をなくすために……………福津市立津屋崎中学校 2年	おがさわら 小笠原	りく 陸	と 斗	36	
犯罪や非行がなくなる社会へ……………大川市立大川桐薫中学校 1年	こ 古	が 賀	だい 大	ち 智	38

福岡県更生保護女性連盟会長賞

正しい選択……………福岡市立青葉中学校 1年	とみ 富	たか 高	いち 一	か 花	40
一声で変わった心と環境……………北九州市立飛幡中学校 1年	くぼた 久保田	じゅん 純	か 叶	42	

福岡保護観察所長賞

社会を支える保護司の仕事……………飯塚市立筑穂中学校 1年	た 田	なか 中	ゆ ゆ	き き	44
私がいさつをする理由……………柳川市立柳城中学校 3年	ふる 古	かわ 川	れい 礼	な 奈	46

【佳作】

小学生の部一覧……………	48
中学生の部一覧……………	51

【最優秀賞】

小学生の部
福岡県推進委員会委員長(福岡県知事)賞



社会を明るくする運動

北九州市立中井小学校 6年

原 尾 颯 真

ぼくは転校してくる前は山口市に住んでいました。近所には高いへいの建物があり、お母さんに何の建物か聞いてみたら、けい務所でした。けい務所は犯罪をおかしてしまった人が反省して心を入れかえる場所で、中では規則正しい生活をして、社会復帰をするのにこまらないよう仕事の技術を学んでいると教えてくれました。また、けい務所の近くには、山口県更生保護センターひまわりりょうという施設があり、その施設はけい務所から出た時に支えてくれる家族がない人達が共同生活をしながら社会復帰を目指す場所だということも教えてくれました。

お母さんのおばあちゃんは更生保護ボランティアをしていたそうです。おばあちゃんは、けい務所に入っている間だけ反省するのではなく、その先の人生でも反省し続けたいといけなし、生きづらいと感じることがあると思うけれど、がんばって生きぬかないといけなしと言っていたそうです。おばあちゃんは一度犯罪をおかしてしまった人でも、本当に反省をして人生をやり直したいという気持ちがある人は社会全体で支えていかないといけなしという気持ちでボランティアをしていたそうです。ぼくはおばあちゃんは、人によりそい認め合うことができるやさしい人だと思います。

ぼくは犯罪をおかしてしまう人と、犯罪をおかす前にとどまる人のちがいは何かを考えました。その結果、ご独であるかご独ではないかのちがいではないかと思いました。自分のことを信じてくれたり大事に思ってくれる人がいると、その人のことを悲しませたり裏切ったりしたくないという気持ちから、犯罪を思いとどまると思います。逆にご独な人は、自分はだれからも必要とされていないと思い不安になっ

たり、どうでもよくなったりして、また犯罪をおかすのではないかなと思います。

被害にあった人は、いきなり幸せな生活をこわされて、一しゅんで生活が変わり、心に一生残るきずを負ってしまいます。そのようなことは許されるべきことではないし、悲しい被害者がいなくなる社会になればいいと思います。そのために、身近な人との間で、「一人じゃないよ。」「大切な人だよ。」など、あたたかい言葉を伝え合い、こ独を感じる人がいない社会をつくるべきなのではないかなと思います。





「暖かい」社会をつくるために

北九州市立中原中学校 3年

村井莉央

中学二年生のとき体調が悪く学校を休むようになった。病院の帰り道、母から裁判の傍聴に行こうと誘われ初めて裁判所に向かった。

部屋に入ると検察官や弁護士らしき人が座っていた。裁判官や裁判員が入場し、被告人の名前が呼ばれた。私はどこから被告人が入ってくるのかと周りを見渡した。すると、一人の男性が立ち上がった。私は唾然とした。なぜなら、部屋に入ったときからいたその弁護士らしき人だったからだ。私の中で犯罪を犯した人はとても怖いイメージがあった。しかし、その被告人はどこにでもいそうな普通の見え目をしていました。

裁判の結果は懲役二年、執行猶予なしだった。私の目の前には被告人の家族らしき人が座っていた。結果を聞いた瞬間、涙を流しているのが見えた。犯罪を犯すと被告人だけではなく、家族も辛い思いをする。そんな場面を目の当たりにして胸が痛くなった。それと同時に人を悲しませる行動はしないと誓った。

それ以降どうすれば犯罪や非行のない社会になるのかを考えるようになった。

小学校の頃、下校時に同じマンションのおじいさんやおばあさんが、「おかえり。」と声をかけてくれた。私は恥ずかしいなと思いつつ、「ただいま。」と返す。同じ棟の人はみんな顔見知りだった。しかし、その後引っ越しをする人が増え、新しい入居者に変わり顔も名前もわからなくなった。かつて恥ずかしいと感じていた「おかえり。」がなくなると淋しい気持ちになった。それと同時に、みんなに見守られていたんだなと思った。

そこで地域全体での見守りや声掛けが犯罪の抑止になると考えた。時代と共に地域の繋がりが希薄になり寂しくなる。今の私にできることは地域の一員として進んで挨拶をすることだ。勇気を出して挨拶を

したら笑顔で返してくれた。地域全体で挨拶の笑顔が広がる運動をしていきたい。

次に、犯罪を犯した人が再犯しない仕組みが大切だと思った。法務省の再犯防止推進白書によると、2020年の再犯率が、49.1パーセントと調査開始以降過去最高を記録したことがわかった。再犯の理由は学業や仕事が続かないことや処分を軽く考えていたなどがあげられている。

どうすれば再犯率が低くなるのかを考えていると父が友人の話をしてくれた。

「友人が建設業を営んでおり、出所後の受刑者を雇っている。途中で辞めてしまう人、やんちゃな人、すぐに喧嘩をする人など普通の職場では嫌がられてしまう人もいる。しかし働く場所がなくなればまた犯罪を犯してしまう。寄り添いながら社会復帰の手助けをしている。」

その話を聞いて社会全体で手を差し伸べ手助けをし、孤立させない社会を作る必要があると強く思った。

どの問題も最後は人と人の繋がり大切さに結びついた。私の住んでいる地域には裁判所や医療刑務所、鑑別所がある。この問題を考えるまでは身近に矯正施設があることすら知らなかった。「無関心」ではなく、国民一人一人が被害者にならない、加害者にさせない「暖かい」社会を作っていきたい。そのために周りの人に「一人じゃない」と伝えていきたい。

今、私は体調もよくなり受験勉強を頑張っている。「暖かい」社会を作るために沢山勉強をし、どんな人でも暮らしやすい社会を作り笑顔を増やしていきたい。



【優秀賞】

小学生の部
西日本新聞社賞



きれいにすることで

福智町立市場小学校 6年

伊藤杏莉

私は、非行や犯罪のない明るい社会づくりについて、まず「非行」とは何かということを探しました。辞書で調べてみると、「非行」とは、「道義に外れた行為。特に青少年の法律や社会規範に反する行為。」とありました。少し難しいですが、具体的に挙げると、未成年の飲酒や喫煙、薬物乱用、窃盗、暴走行為、夜間徘徊、落書きなどが含まれているそうです。どの言葉も気分の良くなる言葉ではなく、つまり、社会においてやってはいけない行動なのだと感じました。

私は、非行や犯罪をなくす取り組みを調べる中で「割れ窓理論」という考え方を知りました。

「割れ窓理論」とは、アメリカの環境犯罪学者ジョージ・ケリングが提唱した理論で、「建物の割れた窓を放置しておく、注意が行き届いていないというサインとなり、いずれの周囲の窓も割られる。」という理論だそうです。小さな問題をそのまま見過ごし放置することで、ルールを守ろうとする意識がうすれ、大きな問題につながる。逆に、小さな問題を放置せず小さいうちに対処すれば、大きな問題を防ぐことができるという考えです。

この理論を使ったもっとも有名な取り組みがあります。

1990年ごろ、ニューヨークは治安が悪化していました。そこで、当時のニューヨーク市長が、落書きや公共物の破壊、違法駐車、無賃乗車、万引きなどの軽微な犯罪を積極的に取り締まりました。また、割れた窓を修理し、落書きを消し、それらの取り組みによって街の秩序は取り戻されていきました。

ディズニーランドでもこの考えを取り入れているそうです。具体的に言うと、こまめな清掃・修繕をして、常にきれいな状態に保つことで、

来園者によるごみのポイ捨てや施設を汚す行為を減らすということですが。確かに、きれいに清掃された場所の方が汚したり、ごみを捨てることに対しての抵抗が大きくなります。きれいに整えられた場所では気分もよくなると思います。

ある時、私は弟と遊びの延長で家の近所のゴミ拾いに出掛けたことがありました。舗装された道路上にパッと見た感じではごみは落ちていませんでした。しかし、舗装されていない道路の端や草むらの茂みの中には意外とごみがたくさん落ちていて、ペットボトルの空やジュースのパック、お菓子の袋やタバコの吸い殻など様々なごみを拾いました。

その時、私は人は見えるところにはごみは捨てないけれど、見えにくいところやわかりづらい所にはごみを捨ててしまうのだなと思いました。つまり、人は自分が悪いことをしたということを知られたくないのではないのでしょうか。そして、ポイ捨てされたごみがあると、それを見た人も軽い気持ちでごみを捨ててしまい、自分だけではないから悪くはないと感じてしまうのだと思います。これが、少しずつエスカレートしていき、非行の元になるのかもしれない。だから、きちんと人の目を行き届かせて日ごろからきれいにしておけば、悪いことをしにくくなると思います。また、身の回りをきれいにすることで、思いやりの心が生まれると思います。誰がこわしたとかちらかしたとかは関係なく、みんなが心地良く過ごせるようにきれいに整えるという行為は、自分も他人も幸せになる一つの手段だと考えます。

私は非行や犯罪のない社会に向けて私たちができることは、身の回りの整理整頓やきれいにすることだと思います。だから、これから家や学校の掃除や整理整頓をこれまで以上に頑張りたいと思います。



【優秀賞】

小学生の部
西日本新聞社賞



言葉の力

福岡市立博多小学校 6年

土 肥 愛 奈

私たち人間は、神様から『言葉』という素晴らしい力をさずけられています。言葉を使うことで、私たちは自分の思いや考えを他のだれかに伝えることができます。でもその言葉が人を傷つけたり悲しませたりすることがあります。特に口から出る言葉は、形はないけれど、まるで刃物のような凶器となることだってあるのです。私も、つい人を傷つけてしまうようなことを言ってしまって、本当はこんなこと言うつもりじゃなかったのにと後かいたことが何度もあります。

どうして人はだれかを傷つけるようなことをしてしまうのでしょうか。誰でも、『人に言われて自分がいやだと思ったことは自分も人に言ってはダメ』と教わったはずなのに、どうしてしてしまうのでしょうか。イライラしている時つい言ってしまったり、もしかしたら自分が誰かに傷つけられたというつらい気持ちをまぎらわすために他のだれかを傷つけているのかもしれない。友達がきかない言葉を使っているのをついまねしてみたくなったり、自分のほうが負けていると感じた時に言うってしまうこともあるかもしれません。世界は素敵な言葉であふれているのに、人を傷つける言葉が誰かを傷つけて、またその誰かが誰かを傷つけて、そうやって犯罪や非行につながっていくのはとても悲しいことだなと思いました。

私の母は、いつも私のことをほめてくれます。漢字ノートの字を見て、『みとれるほどきれいな字』と言ってくれたり、母が仕事でつかれている時に私が変顔をして笑わせると、『つかれがふっとんで元気がわいてきた』と言ってくれます。母の言葉を聞くと、もっとがんばろうと思えたり、もっと母を喜ばせてあげようという気持ちになります。父は毎日のように私に『生まれてきてくれてありがとう』と言います。少

しはずかしくて『またそれ?』と言いつ返してはいますが、本当はとてもうれしい気持ちでいっぱいです。私は家族の温かい言葉で心がほかほかと温かい気持ちになります。だから、世界中の人が私のように温かい言葉で温かい気持ちになる人ばかりだったらいいのになと思います。

社会を明るくするために私ができる第一歩は、言葉で人を笑顔にすることです。母のように、人のいい所に気がついた時にはそれを言葉にすること、感謝の気持ちは、父のように『ありがとう』というまっすぐな言葉で伝えること、そして、『おはようございます』や『こんにちは』など、人と人がつながる言葉を私は大切にしていきたいです。

私たち人間は、神様から『言葉』という素晴らしい力をさずけられています。だからこそ言葉を大切に、きかない言葉や人を傷つける言葉じゃなく、人を幸せな気持ちにする言葉や感謝を伝える言葉を使う世の中になってほしいです。ひとりひとりが相手を思いやる言葉で誰かを幸せにしたら、また次の誰かを温かい言葉で幸せにする、そんなつながりが世界中にどんどん広がっていけば、きっと社会は明るくなると私は信じています。



【優秀賞】

小学生の部
福岡県保護司会連合会会長賞



親切はまわる

八女市立忠見小学校 6年

牧 □ 瑛 登

ぼくのお母さんは「自分が親切にすると、いつか自分にまわってくるんだよ。」といつも言っています。お母さんは、積極的に見知らぬ人にも親切にしています。その後、必ずぼくに「自分が親切にすると相手も困っている人を見たら親切にしようという気持ちになっていつかみんなが心優しい人になるんだよ。」と、言ってくれています。ぼくは「うん。」と返事はしているけど実際その時になると「この人は優しい人かな。」や「声をかけて本当に大丈夫なのかな。」などと考え消極的になってしまいます。結局、親切にできずに終わってしまうことばかりでした。そのことで後悔していると、お母さんはぼくをはげまして元気してくれます。今ぼくは小学6年生です。ボランティアや身のまわりの人に親切にする機会も前より増えてきたと思います。最近では老人ホームで働いているお父さんにしらないおじいちゃんやおばあちゃんの話をしてもらうことができました。その時におじいちゃんやおばあちゃんが認知しようという病気になっている人がいることを知りました。でも認知しようになって家族のことを忘れる人もいますが老人ホームで働く人たちと会うときに楽しく話しているとききました。そのときは働いている人もおじいちゃんやおばあちゃんたちも笑顔でいることを知りました。このことをきっかけに今まで親切にできていなかったけど自分が親切にすることとすることの意味があることに初めて気が付きました。「自分が親切にすると相手も困っている人を見たら親切にしようとする気持ちになるんだよ。」という言葉を大切に

してこれからも生きていきたいと思います。自分が出来ることは何かを考えて困っている人を見つけたら積極的に親切にすることをこころがけていきたいです。大人になっても自分が親切にするとまわって自分に良いことがあるという言葉をおれずに良いことをしていきみんながこつう気持ちになれば、いつか世界中の争いやいじめ、差別などがなくなって平和な世の中になれば良いなつて思いました。



【優秀賞】

小学生の部
福岡県保護司会連合会会長賞



私が心がけること

福岡市立那珂小学校 6年

長 島 かおる

私は、最近「社会を明るくする運動」を知った。それまでは聞いたことがなかったためどんな運動をしているか知らなかった。興味を持ったので、調べてみると「犯罪のない明るい社会をみんなで目指す運動」と書いてあった。他にも、犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生について社会全体が理解をすることなどが書いてあった。

私は、すごい運動だと思った。犯罪や非行をしてしまった人たちがもう二度と同じ過ちを繰り返さないように社会全体が協力しようとしているところがすごいと思う。だが、同時に誰にも受け入れてもらえなかったり、少しの気の迷いで犯罪や非行をしてしまう人がまだたくさんいるということにもつながる。だからこそ、私にもできることはあるのではないかと考えた。そこで、私はこれから心がけようと思ったことを三つ提案する。

一つ目は身近にいる人を大切にすることだ。私達は、普段関わっている人たちを本当に大切にできているのだろうか。そこで自分の行動を振り返った。たまにできていないときもあるため、これからは意識しようと思った。目上の人には敬語を使ったり、家族や友達など親しい人たちには日頃の感謝の言葉を言ったりすることで大切にすることができよう。また、挨拶や最近の出来事を話したり、聞いたりするだけでも相手を大切にすることができようと思う。でも、なかなか感謝の言葉を伝えづらい時がある。そんなときは、「ありがとう」の一言だけでも言ってみようと思った。それだけで、自分も相手も嬉しくなることができるからだ。

二つ目は挨拶をすることだ。挨拶をすることは身近な人を大切にすることにもつながる。家族や友達などはもちろん、先生や地域の人に

も挨拶をしてみよう。地域全体で挨拶をして、地域からどんどん挨拶の輪を広げていこう。挨拶がきっかけで仲の良い友達ができるかもしれない。挨拶は人と人をつなぐ魔法の言葉である。そう考えると、挨拶をすることはとても大事なことだと思う。

三つ目はルールやマナーを守ることだ。学校のルール、家でのルール、ショッピングモールやスーパーマーケットでのルールやマナー。様々な場所にルールやマナーはある。そんなルールやマナーの一つ一つをきちんと守っていくことが大切だと思う。

このように、身近な人を大切にしたり、挨拶を心がけたり、ルールやマナーを守ったりすることが、地域をだれもが暮らしやすい場所にすることができると思う。

犯罪や非行をしてしまった人たちを社会から追い出すのではなく、今後そのような人たちが増えないように社会全体で協力することが大切だと思う。人の悪いところを見つける人ではなく、人の良いところを見つけることができる人になりたいと思った。身近な人を大切にできる人、挨拶があふれる地域、ルールやマナーを守り、誰もが暮らしやすい街をつくっていくことが「社会を明るくする運動」につながるのではないかと考えた。



【優秀賞】

小学生の部
福岡県更生保護協会理事長賞



思いやりの心

福岡市立月隈小学校 6年

向 田 ゆ い

社会を明るくする運動は、人々がおたがいに助け合い、思いやりの気持ちを持つことでみんなが明るく幸せに暮らせる社会を作ろうとする活動です。この運動は、犯罪を防ぎ、困っている人を助けることで、より安全で安心な場所を作っていけることを目指しています。

例えば、学校で友達が困っているときに手を差し伸べることや、道ばたでゴミを見つけたらひろうことも、この社会を明るくする運動の一つです。小さな親切や思いやりの行動が、社会全体を明るくする大きな力になるのです。

私たち一人ひとりができることがたくさんあります。例えば、お年寄りに席をゆずったり、困っている人に声をかけたりすることです。また、いじめをしない、させない、見て見ぬふりをしないことも大切です。いじめは人をきずつけるだけではなく、社会全体を暗くしてしまいます。だからこそ、いじめをなくすことは、社会を明るく楽しく笑顔にするためにとても大事なことだと私は、思いました。

私たちが住んでいる社会は、みんながいっしょに作り上げていくものです。一人ひとりが「社会を明るくしよう」という気持ちを持って行動することで、今よりももっと素敵で明るい場所になると思います。私も日々の生活の中で、だれかの役に立つことややさしさをわすれずに、社会を明るく楽しく笑顔にしたりできたりする運動に参加していきたいです。

例えば、近所の清そう活動に参加したり、地域のイベントでボランティア活動などに参加したりすることで、地域の人たちと交流することができます。そうすることで、おたがいの顔を知るようになり、困ったときは助け合うことをすることができるし困ったことをきがるに話

したりすることだってできちゃいます。

私たちができる小さなことでも、積み重ねていくことで大きな変化をもたらすことができます。だから、みなさんもぜひ、社会を明るくするために自分にできることを考えてみてください。そうすることで、私たちの周りの人々がもっと笑顔で幸せになり、みんなが安心して笑顔で楽しく暮らせる場所になると思います。

社会を明るくする運動は、私たち全員の心に笑顔や楽しさ、明るさなどのいろいろな心をうみだす素晴らしい活動です。そして、みんなが思いやりや、助け合い、小さな親切、声かけ、手を差し伸べる、地域のボランティア活動、お年寄りには席をゆずる、だれかの役に立つなどの行動をすることでみんながいい気持ちになったりみんなが幸せな気持ちになると思います。なので、人が困ってたりしたら声をかけてみて困っている理由を聞いたりしてみてください。そして、明るく素敵な社会になっていくと思います。



【優秀賞】

小学生の部
福岡県更生保護協会理事長賞



相手のことを考える

大川市立田口小学校 6年

古賀千盛

「罪を犯した人は、事情があり、周りが思いやって行動することで、再犯は防ぐことができるもの。」

私はそう考えます。こう考えるようになったのは、ある授業で学んだからです。

ある日、道徳の学習で、「銀のしょく台」という題材をしました。このお話は、刑務所から出所したジャンが、快く泊めてもらった教会の司教さんの銀の食器をぬすんでしまうというものです。司教さんは、ジャンのぬすんだ行為を許し、さらにぬすんだ食器に加えて銀のしょく台もジャンに渡したのです。私は、司教さんは、刑務所から出たばかりなので、住む所も無くお金も持っていないのだろうとジャンを思いやり、「許す」という行動に移したのだと感じました。きっとジャンは司教の思いを受けとめて、もう罪を犯すようなことはしないだろうと想像できました。なので、このように相手に対する思いやりを多くの人が持つことができれば、刑務所から出所した人の二人に一人が再犯者という今の社会の現状を少しでも変えることができるのではないのでしょうか。

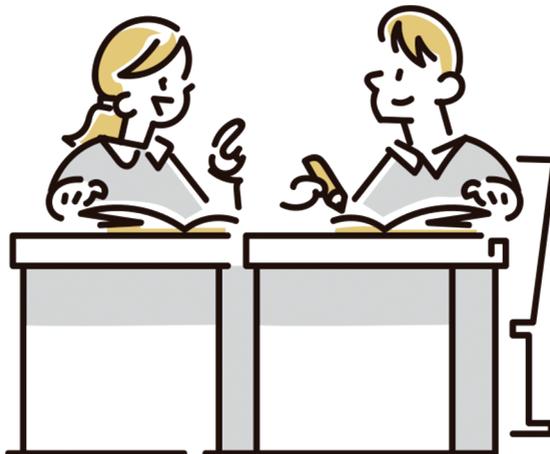
では、思いやりを持つこと以外に、何か再犯を防ぐような方法や工夫はないのでしょうか。また、そもそも罪を犯さないようにするにはどうしたらよいのでしょうか。私は、再犯を防ぐ工夫と罪を犯さない工夫を考えてみました。

まず、再犯を防ぐ工夫については、思いやりはもちろんのこと、罪を犯した人に対する立ち直りを工夫するとよいのではと考えました。具体的には、再犯してしまった人の約半数が仕事のない無職であったというデータがあるそうです。再犯者の環境を整えて、その人に最適

な仕事に就けるように支援を充実させることで無職であることをなくしていけると思います。仕事があれば、それを捨ててまで罪を犯さないと考えています。だから、再犯を防ぐことができるはずです。他にも、正しく生活をするための見本や例の提示をしたり、再犯は罪が重くなりやすいことを刑務所でしっかりと教えておいたりするといったものもあります。しかし、一番大切なことは、このように工夫を行った上で、「もう二度と罪を犯して、刑務所には行かない」と犯罪者が決心して、社会に戻ることです。私たちはそんな決心をした人々を受け入れていくべきです。

次に、初犯を防ぐための工夫です。罪を犯すまでには、様々な思いや事情があるはず。それを取り除いてあげればよいと考えたので、相談や支援する窓口サービスを強化するとよいと私は考えます。プライバシーの保護や支援体制を整えて、相談しやすくする場をより多く設けることで、様々な思いや事情を軽くしたりなくしたりできます。そのためには、社会でこのことを考えていく必要があると思います。

最後に、罪を犯した人は悪い人であるのは確かですが、何かしらの事情があることも確かです。罪を犯した人は、ちょう役などの刑を受けています。そのような人たちが再び罪を犯してしまわないためにも、周りの環境を整えることが社会の課題だと思います。そして、罪を犯さないよう様々な工夫をすることや思いやりをみんなが持つことが今の私たちの課題です。これらの課題が解消されれば、犯罪に手を染めるといったことが減っていくでしょう。



【優秀賞】

小学生の部
福岡県更生保護女性連盟会長賞



ラジオ体そうから始まる地域のきずな

北九州市立鴨生田小学校 6年

大井 日菜子

私は、自分の地域を家族で散歩をすることが好きです。毎日夕食後に散歩をしています。夏休みは学校がないこともあり早朝に散歩をしています。すると、ある日公園から軽快な音楽が聞こえてきました。それは運動会でも聞いたことがあるラジオ体そうでした。公園を見ると広々としたグラウンドの上には、おじいちゃんやおばあちゃん、犬の散歩ついでに立ち寄った人などがいました。ぐうぜん友達が参加をしていました。私達も参加をすることにしました。

ラジオ体そうが始まる前、グラウンドや遊歩道にはあいさつの声が飛び交います。お世話をする人は、色々な人に、

「おはようございます。」

と声をかけ、初めて参加する人にも、

「はじめまして。」

と笑顔で話しかけています。私は最初は少し照れくさかったあいさつも、今では自分からできるようになりました。あいさつをすることで、周りの人とのきよりがちぢまり、温かい気持ちで体そうに参加することができます。

ラジオ体そうが終わると、参加した人達はそれぞれ思い思いに過ごします。そのまま、ベンチでおしゃべりをする人やウォーキングをする人もいれば、家に帰る人もいます。私は参加した人が連れてくる犬を見るのが楽しみです。犬の名前を聞いたり、なでたりすると、とてもいやされます。

ある日、私は旅行に行き何日かラジオ体そうに参加することができませんでした。すると、いつも参加をしているおじいさんが心配して、「元気だった？来ていなかったから、どうしたかなと思ったよ。」

と声をかけてくれました。私のことを覚えていてくれてうれしかったです。その声をかけてくれたことを祖父母に話すと、実は祖父母の昔からの友人でした。私は、おどろきました。地域の活動に参加することで、地域の知り合いの輪が広がりました。

ラジオ体操を通して、私はあいさつの大切さ、人とのつながりの大切さを学びました。ラジオ体操を通して得たつながりは、地域のイベントや、活動にも広がっています。例えば、二島ぎおん山かさ、二十七区レクフェスタ、ほんおどり、防災訓練などです。これらの活動に参加した時にも

「こんにちは」

と自分からあいさつし、私は多くの人とあいさつを交わす機会が増えました。その結果、地域の人々との関係が深まりました。

「あいさつをする」といった日常の中での行動が、地域を明るくし、おたがいに助け合う社会を築くための第一歩となると考えます。これからも、私はあいさつを続け、社会を明るくする運動に参加していきたいです。



【優秀賞】

小学生の部
福岡県更生保護女性連盟会長賞



ネットの使い方

大牟田市立三池小学校 6年

松尾悠臣

社会を明るくする運動について考えたときに僕が最初に気になったのは、ネットで誹謗中傷をする人がいることでした。

どうして誹謗中傷をする人がいるのか、インターネットで調べてみました。調べてみると、誹謗中傷をする人の特徴には、こんなことが書いてありました。対象の人が嫌いで我慢ならないから。日常のストレスのはけ口になっている。嫉妬心が強い。正義感が強い。コンプレックスを抱えている。ということが書いてありました。その人たちの心理は、ストレスを発散したい。自己肯定感を上げたい。愛情不足を補いたい。独自の正義を振りかざしたい。などいろいろな理由がありました。

それから、誹謗中傷をした人は、最後にどうなるかも書いてありました。身元がたくさんの人にばらされ、訴えられてます。賠償金の請求もされて、仕事や学校にも影響が出るそうです。

次に、誹謗中傷をしない人、していない人のことも調べてみました。人と自分を比較しない。人の成功や幸せを素直に受け止められる。人を利用して自分の欲求を満たそうとしない。ということが書いてありました。

今回、誹謗中傷について調べてみて僕が思ったことは、まず何をする時でも、相手の気持ちを考えて発言した方がいいと思いました。ネットでは、顔が見えないから文句を言ったりストレスを発散したり、暴言をはいたりするかもしれないけれど、見えないだけで相手はいます。

だから、普段から人に対する態度に気をつけて、ネットを使うときも同じ感覚でいたいと思います。人が嫌がることはしない。ということも考えないとトラブルに巻き込まれることがあります。ネットで書いたことはずっと永遠に消えないことも頭に入れて、発言には気をつけたいと思います。だから僕はネットで発言するときには、どのように言ったら相手が傷つかないかを考えて発言し、コメントしようと思いました。



【優秀賞】

小学生の部
福岡保護観察所長賞



心の支えがつなぐ世界

遠賀町立広渡小学校 6年

松 下 心 咲

夏休み。ぐうぜん出合った動画に私は心をうたれました。それは、少年院出身にも関わらず、現在はたくさんの方々の病気を診察している水野先生のドキュメンタリーでした。

水野先生は学生時代、ガベにぶつかったらすぐににげるせいかくだったそうです。いつもにげてばかりで自分に自信がなかった水野先生は、先はいにさそわれ、シンナーを吸い始めます。薬物せっしゅはさらに進んでいきついに覚せいざいまで手をつけるようになってしまいました。その後、警察につかまり、少年院で過ごすこととなります。

少年院では自身を見つめ直し、「医師になる」という夢を思い出します。少年院を出ると、小学生時代に通っていた塾の塾長でもある保護司の人と一年を過ごします。保護司とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える活動を行うボランティアのことです。その保護司の人から、

「俺の死亡診断書を書けるようになれ。」

と言われたそうです。死亡診断書は医師しか書けません。「医師になりなさい。」という保護司の方のメッセージだったと思います。保護司の方からの言葉で、水野先生は「必ず医師になって恩返ししてみせる。」と決めました。

その後、水野先生は、三度受験に挑戦し、金沢医科大学に合格されました。そして、2018年に父の診療所を引きついで、患者の気持ちに寄りそった地域医療に取り組まれています。

私は、このような話を動画で観て、保護司の方の言葉や支えで立ち直ることができたのは、本当にすごいなと思いました。私が水野先生の立場だったら、自分の夢やこれからの人生に迷ったり、悩んだり、

希望が見い出せなかったりしていたと思います。

父の診療所を引きついで水野先生は、「患者を断らない病院」を目指して、日々診察を行っています。特に力を入れているのが終末期医療だそうです。終末期医療とは、余命わずかな人に、体調面と精神面のサポートをする医療のことです。患者の方の好きなことやしゅみに合わせて、一緒にパチンコに行ったり、つりに行ったりして寄りそいながら治療をされています。患者が何をしたいかを聞いて、やりたい事を一緒に実現させてくれることがすごいと思いました。近くに水野先生がいてくれるだけで、患者もその家族も安心するだろうなと思います。水野先生の、人を気づかい、応援していくということのすばらしさに気づき、私の生活や将来でも取り入れていきたいと思いました。

私はこれから、周りの友人が困っていたり、生きづらさを感じていたりすることがあったら、少しでも支えになるような声かけや行動をしていきたいと思います。そのために、日ごろから、積極的にいろいろな人と話したり、関わったりしていきたいと思います。

このことが広まると、社会がより明るいものになると私は信じています。水野先生のお話のように、保護司の方など、支えてくれる人の存在を大切にして、更生できる社会をみんなでつくっていくことがとても大切だと強く感じました。



【優秀賞】

小学生の部
福岡保護観察所長賞



「語先後礼」のパワー

鞍手町立剣南小学校 5年

石橋 知 紘

ぼくの通っている剣南小学校では「語先後礼」の取り組みを行っています。「語先後礼」とは、先にあいさつの言葉言って、そのあとに礼をすることです。学校の先生や友達、学校に来る人、地域の人に向けて行います。

ぼくは、この取り組みをするまでは、「語先後礼」という言葉も行動も知りませんでした。今までは「おはようございます。」と言いながら、校長先生に頭を下げていました。

「語先後礼」の取り組みを始めてすぐに、その良さに気づきました。

きちんと相手の目を見て「言葉」と「礼」を分けてあいさつをすると、いつもと同じ声の大きさをあいさつしても、

「大きな声だね。」

「元気がいいね。」

とほめてもらうことが増えたのです。

でも、なかなかあいさつを返してくれない友達もいました。恥ずかしかったのかもしれないし、聞こえていなかったのかもしれないとは思いましたが、少し悲しい気持ちになりました。だけど、勇気をだしてあいさつを続けていくと、その友達もあいさつを返してくれるようになって、ぼくはとてもうれしい気持ちになりました。少しのことで、うれしい気持ちになったり、悲しい気持ちになったりするなんて、あいさつにはすごい「パワー」があると思いました。

家でもあいさつを忘れていたり、あいさつの声が小さかったりすると、お父さんやお母さんに、

「おはよう言った？」

「いってきますは？」

とちゃんと言うまでしつこく言われたことがありました。習い事のミニバスでも体育館に入る前にあいさつをするし、相手チームやコーチへのあいさつについてとても厳しく言われていました。これは、ぼくのお父さんやお母さん、コーチがあいさつの大切さを知っていて、ぼくにその大切さに気付いてほしいと思っているからだと思いました。

でも、あいさつにはもっとすごい「パワー」があるのではないかと思います。

例えば、まったく知らない人でもあいさつをすれば仲良くなるきっかけになって、友達が増えるかもしれません。地域の人にあいさつをすれば、顔や名前を覚えてもらって、困っているときにお互い助け合うこともできます。明るいあいさつをすれば、もしかしたら何かに傷ついている人を笑顔にすることができるかもしれません。

あいさつにはすごい「パワー」があります。そして、きっとまだ気づいていないくれたあいさつの「パワー」があると思います。その「パワー」はきっとこれから先の社会を明るくしてくれると信じています。

だからぼくは、「語先後礼」のあいさつを続けて、その「パワー」を知りたいと思います。ぜひ、みなさんも「語先後礼」をやってみませんか。



【優秀賞】

中学生の部
西日本新聞社賞



孤独をつくらせない社会へ

北九州市立守恒中学校 1年

与古光 莉 夏

私は、罪を犯してしまった理由の一つとして孤独があげられると思います。それは、一人でいると、人とのかかわりを持たず自分だけの考えに固執して気持ちが悪循環して、犯罪に至るのではないかと思うからです。だから、周りに話を聞いてあげられる人や手を差し伸べてくれる人がいたら犯罪まで至らなかったと思います。

私は、お父さんの仕事の都合で今まで二回引っ越しを経験しました。一回目は幼稚園の年長の時です。幼かった事もあり、悩むこともなくたくさんの友達ができ、毎日いろんな友達と公園で遊んでいました。五年生の二学期になり転校することになりました。一回引っ越しを経験したので大丈夫だと思い、特に心配はしていませんでした。しかし二学期ということもあり、周りはグループができていてなかなかクラスになじめませんでした。遊べる友達もできず引きこもってしまい、半年間休日に一回も外出することができず、学校に行きたくないと毎日泣いていました。先生や家族、親戚はいつも心配し声をかけてくれました。

それに対し、私は心配する気持ちを素直に受け取れず、何の行動も起こせませんでした。五年生も終わり、春休みになった時、母に当時一番仲の良かった友達に連絡先を交換するようにすすめられました。勇気を振り絞り、聞いてみると、友達は快諾し、その子と遊ぶようになりました。更にその子の友達とも仲良くなり、今ではたくさんの友達ができ、休日は絶対遊ぶようになりました。

前の状況を変えられたのは、自分自身が一歩を踏み出したこと以上に諦めずにいつも応援してくれた家族、親戚、先生の支えがとても大きかったと感じています。周りの人が支えてくれなかったら、私は誰

とも話せず、ずっと引きこもっていたでしょう。周りの人を恨んで自暴自棄になっていたかもしれません。環境の変化への対応は大変でしたが、この経験を通して、一人でいることの辛さと支えがあることの大切さを知ることができました。この経験に感謝して、自分がたくさんの人からしてもらったことをたくさんの人に返していきたいと思うようになりました。それから私は、一人でいる子に話しかけるようにしています。すると、別の友達もその子と話し始め、友達とその子は意気投合し、その子はいろんな人と一緒にいるようになりました。私はとても幸せでした。

一人でいたら絶対に犯罪を犯してしまうという訳ではないけれど、自分が一人になって引きこもったままだったら犯罪を犯していてもおかしくなかったと思います。だから罪を犯さない第一歩として、一人にさせないことが大切だと思います。そのために私はこれからも一人でいる子に話しかけ、みんなで仲良くあり続けられる人でいたいと思います。

また、「更生」についても大切なことがあると考えています。それは、決めつけないということです。

以前、私はほとんど話したことがないのに合わなそうだと思っていた人がいました。でも話してみると趣味が合い、話していてとても楽しいと感じられる人でした。私はその人のイメージを勝手に決めつけてしまっていました。

罪を犯してしまった人のイメージは誰でも「怖い」だと思います。私もそう思ってしまいます。しかし、怖いというイメージをなくしていかなければ更生できる人は本当に少なくなってしまうと思います。

私はまず、怖いというイメージをなくすために、自分の周りにも勝手に決めつけられている方がいるかもしれないと意識することから始めたいです。そして犯罪者は何をするかわからないから避けると決めつけるのではなく、罪を犯してしまったその背景に目を向けたいと思います。

これから私ができることは罪を犯さない第一歩として一人の環境を作らせないということです。イメージで決めつけず、更生ができるように周りに罪を犯してしまった方がいてもよく話し、耳を傾け、理解してあげられる人になりたいと考えています。



負の連鎖を乗り越えて

北九州市立早鞆中学校 3年

内藤 琳音

私は、この作文を書くことに至るまで「社会を明るくする運動」がどんな運動をしているかわかりませんでした。そこで私は、インターネットで調べてみました。

法務省のホームページには、「犯罪のない明るい社会をみんなで目指す運動」と書いてありました。理解ができない私は、もっと詳しく調べました。犯罪や非行を未然に防ぐこと。そして、罪を犯してしまった人が立ち直れる社会を作ること（再犯を減らすこと）がこの運動の目的だとわかりました。これを読んで、私はこの運動にとっても興味が高まりましたが、体験したこともなく、身近に感じることもないため、母に相談したところ、最近よく親が子への虐待で死亡するという残酷なニュースの事、それと、自身が体験してきたことを話してくれました。

母は、幼い頃に家庭内暴力を受けた経験があり、児童養護施設に入っていたそうです。母は、私につつみ隠さず話をしてくれました。母は気さくに話してくれましたが、私はとても心が苦しくなりました。なぜ母がそんな目にあっていたのか。周りの人は助けてあげられなかったのか。幸い母は、高校の保健室の先生に相談し、家を出て逃げる事ができたそうです。でも、何度も死を考えたこともあったそうです。保護に至るそれまでの十数年間、虐待を我慢してきた母は強いと思いました。親から虐待を受けた子は自分の子どもにも同じことをしてしまう（負の連鎖）と言われていました。でも、母も父も一度も手をあげたことはありません。本当に負の連鎖はあるのかと思ってしまいます。続けて母は、虐待は暴力だけではなく、言葉でも虐待になり、しつこくと虐待は紙一重かもしれない、と呟きました。母の声のトーンが下がったことに気づいた私は、負の連鎖を気にしているのだと感じま

した。

最後に母は私に言いました。なんでも相談できる人を必ず作る事が大事だ…と。確かに相談できる人がいれば、すぐに対応できて良いかもしれませんが、してしまった方はどうなるのでしょうか。それがいけないことと理解していただきたいと思います。知らずのうちにということもあると思います。母の体験を聞いてしまった以上、真摯に向き合っていく他ないと思いました。

私は、この作文を書くことで母の心のケアの必要性と、将来、加害者にならないためには、どうすべきなのかを改めて考えていかなければいけないと感じました。そして、私の周りにもそういうことを親や友人、恋人から受けていないかどうかよく見るようにしたいと思います。それと、友人から手を差しのべられたときには、しっかりと手を掴み、励ましや助言を送り、勇気と希望を与えることができれば、一緒に乗り越えられ、『社会を明るくする運動』につながると思います。



【優秀賞】

中学生の部
福岡県保護司会連合会会長賞



「犯罪や非行やイジメをなくすため今の私にできること」

福岡市立城南中学校 1年

長 田 桜 侑

私の家では太郎という犬をかっていて、いつもは父が散歩につれていきます。そして時々、私と二人の妹も一緒についていきます。散歩道には公園があります。小さな子どもたちが遊んでいたり、お年寄りがベンチに座っていたり、中学生や高校生がスポーツしたり、大人の人たちがしゃべったりしています。大きい公園ではありませんが、私も小さいころからよく遊んでいる大好きな公園です。

そんな公園ですが、よくゴミが捨てられています。おかしの袋、アイスの棒、弁当の空箱、ペットボトル、空き缶。タバコのポイ捨ても多いです。そんなゴミを見ながら、父は顔をしかめて、「こういうの、だれが捨てるんだろうね」と言っていました。私も、二人の妹も、「ゴミ捨てる人って悪いね」「最悪だね」と答えていました。

ここに引っ越してきて太郎を散歩させるようになってからの六年間、ずっとそんな感じでした。

ある日、太郎を散歩させる父についていったら、やっぱり公園にいくつかゴミが落ちていました。父は「またゴミがあるなあ」といつものようにイヤそうに言って、それからゴミを拾いました。拾ったゴミは太郎の袋に捨てました。父はちょっとニヤツと笑って、「今、パパがゴミを拾ったのを、どこかで誰かが見てるかもしれない。そうすると、その誰かは、自分もゴミを拾おうって思うかもしれない。拾おうとまでは思わなくても、自分は捨てないようにしようと思うかもしれない。もしもその人がゴミを拾ったら、今度はそれを見た人が、自分も拾おうって思うかもしれない。そうやって、ゴミを捨てる人が増

えていくかもしれない」

と言いました。なるほど、と思いましたが、

「でもパパ、今は誰もいないよ」

公園には、私たち以外に人がいませんでした。そんな私に父はまたニヤツと笑って、

「いるじゃん」

と言って、私と妹二人を指さしました。

「あっ、そうだね」

それから何日かたって、父の帰りが遅くなる日に、私と妹二人で太郎の散歩に行きました。公園にはやっぱりゴミが落ちていました。私は妹二人に声をかけて、一緒に少しずつゴミを拾いました。私たちのことを見ている人がいるかもしれない。その人がゴミを拾うようになるかもしれない。そんなことを考えると、ちょっと嬉しい気持ちになりました。夜になって家に帰ってきた父に、

「今日、公園でゴミを拾ったんだよ」

と話したら、父は、

「あっ、さっそく、すごい」

と言ってニヤツと笑いました。

犯罪や非行やイジメをなくすのも、ゴミを拾うのと同じなのかもしれないと思いましたが、捨てる人が悪いことはもちろんなのですが、落ちていたゴミを見て、顔をしかめて、「最悪」と言うだけで何もしなければ、これから先もゴミは落ちたままです。

それでは、私に誰かの犯罪や非行やイジメを止められるでしょうか。そんな力が私にあるとは思えません。

でも、友だちを笑顔にしたり、困っている誰かを少し助けたり、そういうことならできるかもしれません。笑顔になった友だちは、別の誰かを笑顔にするかもしれない。困っているところを少し助けられた誰かは、他の困っている誰かを少し助けるかもしれない。そうやって笑顔や手助けがつながっていけば、どこかで犯罪や非行やイジメの寸前にいる人のところに届いて、その人が踏みとどまることができるかもしれない。

私にできるのは、ゴミを拾うこと、誰かを笑顔にすること、困っている人にちょっとだけ手を差し伸べること。どれも小さなことだけど、続けていけば、まわりまわって、公園がきれいになり、犯罪や非行やイジメが減るんじゃないかなと、そんなふうに考えています。



社会を明るくする為には何をすべきか

大川市立大川桐英中学校 1年

貞 莉 颯 汰

テレビを見ていると、犯罪やいじめなどのニュースが毎日のように放送されている。

なぜ、このような社会問題が起きるのかというのを考えてみた。

頭がいい人が犯罪をしないのか。新聞やテレビを見ているとそうではない。力の強い人がいじめをするのか。これも、力の強い人がいじめをするとは限らない。

このような事を色々考えたが、悪い事をしない人は「心が良い人」だと思う。

次に、「心が良い人」がどのような人か考えてみた。それは、誰に対しても優しく接する事が出来る人ではないかと思う。

「心が良い人」になるため、一人一人が心を育むには、どのようなことをすればよいかを考えてみた。

身近な事では、明るくみんなに挨拶をしたり、お年寄りの人に親切にしたり、小さい子どもには手助けをしてあげたり、道端にゴミがあれば拾ったりするなど、ほんの小さな事でいいのではないかと僕は思う。

このような小さな事を積み重ねていくことで少しずつ心が育まれていくのではないかと思う。

僕が経験したことは、前に久留米市の田主丸町に行って、災害ボランティアの活動をしたことがある。

そこには、僕と同じようにテレビを見て、困っている人がいる事を知って来た人もたくさんいたと思う。多分、困っている人たちの手伝いを少しでもしたいと思っているのだと感じた。

活動としては、浸水した屋内のタンスなどの家具を被災ゴミ集積場へ運ぶトラックに乗せることなどだった。とても体力が必要で大変疲れたが、とても達成感のある活動だった。活動が終わって、ボランティアセンターに戻った時に、センターのスタッフの人に、「お疲れさま、ありがとうね。」と声をかけられてとてもうれしかった。

僕の力では、大人みたいに多くの土を運べないし、早くもできない。それでも、優しく声をかけてもらったことで疲れも吹き飛ばすような気がした。

後になって考えてみたら、このような人と人とのコミュニケーションがとても大切なんだと思った。ボランティア活動をしている時も、終わった後もたくさんの人と話せてとても良い経験になった。

みんなが相手の事を思い、どんな小さな親切でもいいので、積み重ねていくことで「心が良い人」が社会に多くなっていくと思う。

ボランティア活動も僕ができたのは少しだけど、たくさんの人たちがその親切の積み重ねをすることで、被害にあった人たちが幸せになり、そのニュースが流れることで見ている人たちも明るくなると思う。

こんなニュースばかりだったら、社会がどんどん明るくなるのではないのでしょうか。



【優秀賞】

中学生の部
福岡県更生保護協会理事長賞



特殊詐欺をなくすために

福津市立津屋崎中学校 2年

小笠原 陸 斗

テレビやネットニュースで毎日のように特殊詐欺などの犯罪が伝えられている。個人情報もれ、私の両親のもとにも実在する会社になりすましてメールが送られてくると聞いた。本物と偽物の区別ができないほどの内容で利用している会社からのメールは間違えてクリックしてしまいそうになると言っていた。

このような特殊詐欺には闇バイトに応募して犯罪に手を染めてしまう若者が多いことを知った。もし、僕のところ「簡単なアルバイトに興味ありませんか？」とメールがきたらどうするだろうかと考えた。もちろん僕は無視をする。理由は特殊詐欺にだまされるかもしれないからだ。簡単な仕事で高額な給料をもらえるはずはないのだ。

なぜ若者たちは闇バイトに手を染めるのか。闇バイトに関するアンケートによると、587人中120人が闇バイトをしたことがあると答えた。動機として最も多かったのは、「金が欲しかった。」が全体の45%を占めた。家庭の経済状態を尋ねると、66%が「平均以上だった。」と回答している。生活の苦しさとは関係なく闇バイトに関わる若者がいることがわかった。さらに、闇バイトを犯罪だと認識していたのは、8割近くにのぼっていた。罪だとわかっていながらなぜ若者たちは闇バイトに手を出してしまうのか。最初は小遣い稼ぎができるならと軽い気持ちで始めたが、自宅の住所を知られてしまい家族に危害を与えると脅されたりして犯罪から抜け出せなくなるようだ。「家族に相談できたか。」というアンケートに対して、闇バイト経験者の6割が「相談できなかった。」と回答している。その内訳を見ると、「家族関係に問題はない。」という回答と「悪かった。」という回答はほぼ半分。家族関係の善し悪しに関わらず相談できない状況があることがわかった。

このように誰にも相談できず犯罪行為を続けて逮捕されることになる。厳しい実刑判決が下り、受け子のような下の方のグループも刑務所に服役することになる。逮捕されてから初めて罪の大きさを知る人や、逮捕される事により、もう詐欺行為をしなくてもすむと安堵する加害者もいるそうだ。普通に生活していた人が闇バイトの入口になっているSNSを通して犯罪者になってしまう。

このような特殊詐欺の被害者、加害者をなくすためにどうしたらいいのだろうか。手口が巧妙化しており、なかなか被害者が減少していないが、だまされないために次の5点を気に留めておかないといけない。

- 一、はっきりと断る→あいづちを打てば相手のペースに乗せられてしまう
- 二、うまい話はまず疑う
- 三、財産や家族構成などの個人情報をおさない
- 四、おやみに署名したり印鑑をおさない
- 五、迷ったら一人で悩まず相談を

また、加害者となるのを防ぐためにアルバイトを探す時は、「高額」「即日現金」「高額即金」「副業」「ハンドキャリー」「書類を受け取るだけ」「行動確認、現地調査」等の言葉に注意する。楽しんで大金を稼げるアルバイトなんて存在しないことを知っておく。怪しいと思ったら、友人、家族、警察に相談する。

今回この社会を明るくする運動の作文に取り組んでみて、いろいろ調べてみた。いろいろな情報を見極めなければ危険なこともわかった。自分にも情報が何度も送られてきたらどう解決すればいいかわからなくなりそうだ。しかし、一人で悩まず身近な人や家族に相談しようと思う。



【優秀賞】

中学生の部
福岡県更生保護協会理事長賞



犯罪や非行がなくなる社会へ

大川市立大川桐薫中学校 1年

古賀大智

最近、思わぬ殺人事件や犯罪が増えているように思う。テレビで「そんなことする人には見えない」「まさかあの人が…」といった思いもよらない人が、犯罪などをおかすケースも少なくない。

ぼくが、テレビを見ていて、しょうげきを受けたニュースがあった。2023年、愛知県の中学校で授業中に2年生の男子生徒が首をナイフで切りつけられた事件だ。逮捕された女子生徒は「殺意を持って切りつけた」と言ったそうだ。男子生徒は首の後ろあたりを切り、軽傷を負った。このニュースを観て、もうすぐ中学生になる自分にとっては、とてもおどろくニュースだった。どうして女子生徒は学校にナイフを持ってきていたのだろうか。男子生徒が「やれるもんならやってみろ」という一言で、女子生徒は感情をコントロールできなくなってしまって、傷つけてしまったのかなと思った。女子生徒は「殺意を持って切りつけた」と言っていたけど、本当にそうだろうか。もし、そうだとしたら、とても悲しいことだ。二人の関係性は、ぼくには分からないけど、人を傷つけることは、決して許されないことだと思った。日々の学校生活の中で、女子生徒は、何か辛い思いをしていたのかなとも思う。もし、周りの人が優しい言葉をかけていたら、きっと憎しみや怒りといった感情をおさえることができたかもしれない。また、居場所があると思えたかもしれない。居場所をつくってあげることで犯罪や非行を防ぐことができるのではないかと思う。

ぼくは、中学生になって、新しい友人や部活の先輩、小学生の頃とは比べものにならないくらい込み入った人間関係になった。色々ともどいながらも、毎日自分なりに頑張っているつもりだ。でもぼくは、周りの友人達のことを、ちゃんと見ているだろうか。学校生活を送っ

ている中で、友人同士のトラブルやケンカ、自分の怒りをコントロールできずに物にあたりたり、机をけったりといったことが以前あった。ぼくは、その時、何ができたのだろうか。声をかけ、話を聞き手をさしのべていれば、友人の気持ちを落ちつかせることができたのではないだろうか。人は何かにつまずき間違っただ道へ進んでしまうと、一人で正しい道へ戻ってくるのは、とても大変なことだと思う。そんな時こそ、周りの友人や学校の先生、誰かが、そっとよりそうことで助けてあげられるのではないかと思う。過ちを犯したことは、決して許されることではない。しかし、きちんと罪を償い、本気で更生をしようと頑張っている人が生きていける社会をつくるのが、私達の平和な社会へとつながっていくのだと思う。

今ぼくにできることは、犯罪や非行のない健全な心をつくることだと思う。できるだけ誰に対しても優しい気持ちを持ち、良いこと悪いことの判断をしっかりとつけることが大切だと思う。未来の社会はまだまだ想像がつかないけど、ぼくたち、一人一人のこれからの行動によって明るい未来につながる第一歩になると思う。



【優秀賞】

中学生の部
福岡県更生保護女性連盟会長賞



正しい選択

福岡市立青葉中学校 1年

富 高 一 花

私はこの作文を書くことに至って非行に走る人はどうして走るのか調べてみることにした。中でも特に驚いたのは非行少年の家庭環境のことだ。それについて、ある授業を思い出した。警察の方が自転車の交通事故について語っていた。警察の方は「自転車のブレーキも心のブレーキもきちんと確認しないと思いがけない事故が起きる」

といていた。最初は、自分はきちんと確認しているから関係ない話だと思っていた。でも私が思っていることは自転車本体の確認で、もしかして警察の方が言っていた心のブレーキは、落ち着いて確認できる状態ではなくても正しく判断をしないといけないことを示しているのではないかと思った。それなら、非行に走る人たちも同じ状態に陥っていると思った。

そこで非行に走る人たちの主な環境の原因と比べてみることにした。すると、原因に2パターンがあることがわかった。

一つ目は、大人への反発から非行に走るケース。両親や他の養育者から受け入れられなかったり、親が生活していくのに精一杯で子供にかまってやれなくて、大人を信じられなくなったりして、大人への反発から暴走族などの大きなグループで行動してしまう。

二つ目は、期待などの親の声から苦しくなり、心の声が出せなくなるケース。社会のルールや法律を守ることを子供に理解できるように教えたり、子供が人を傷つけた場面で厳しく叱ったりしない家庭で、一人で悩んだ結果、事件を起こしてしまう。どちらも家庭環境が良くないことがわかる。

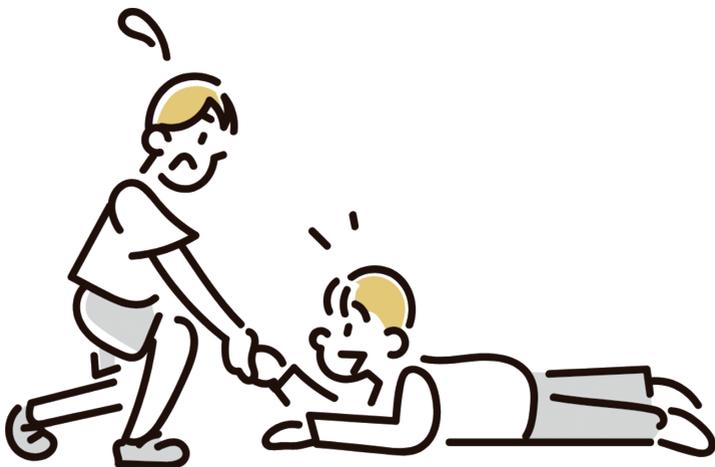
このことから、自転車の交通事故も非行に走る人たちの環境も正しく判断できる場所ではなかったということがわかった。だから、非行に走らせないようにするためには近くの人が助けを求めているとき、その両親、友達、クラスメイト、先生、地域の人達が支え合うための

心を持ち、一人ひとりが心に光を灯せるようにしていかなければならないと思った。

非行に走った少年は再犯する可能性があるという。なぜ再犯するかというと、出所したあと、家族やこれまでの支援者など人間関係が切れてしまい、社会的に孤立することが大きな理由だ。ということは、社会の居場所を作ってあげれば再犯する可能性は減るということだ。そこで、居場所と出番づくりのために少年院から出てきたことを了解の上で積極的に雇用し、その人達の心情を理解し社会復帰に協力してもらおう事業主さんである「協力雇用主」の連携の強化や、国からの様々な支援に基づく連携等協力することで再犯率を少なくしないといけない。

だが、加害者を支援することはおかしいんじゃないかと思う人もいると思う。私も調べる前はおかしいんじゃないかと思っていた。だけど最初に言った通り、ただ選択を間違えただけだと私は思った。悪いことをしたら罰を受けないといけない。でも自分の環境や心に気持ちの整理がつかなくて少年院に入った人たちは、十分罰を受けていると思う。

学校は失敗しても何回もやり直せるように、社会もやり直せるような環境をつくれるように、私たち一人一人が助け合うという気持ちを持って、二度と繰り返さない、そしてわたしたちが誤った道に進まないように成長して行く場所をつくりたいと私は考えている。



【優秀賞】

中学生の部
福岡県更生保護女性連盟会長賞



一声で変わった心と環境

北九州市立飛幡中学校 1年

久保田 純 叶

私が小学校四年生のころの話です。

私が放課後、友達と遊ぶとして公園に行くと、大きい遊具によって大きな声で騒いでいる高校の制服を着た三人組の人たちがいました。その高校生達は、遊具のまわりにおかしの袋やペットボトルを捨てていて、いつもはすごく綺麗な公園がすごく汚れていました。私たち以外に人はあまりいませんでしたが、親子が二組と同じ学校の子たちが何人が遊んでいて、私たちやまわりの人たちは、声をかけたり注意をすることができずに少し遠くから見ていることしかできませんでした。

その時に、私と同じマンションに住んでいる男性が公園の清掃をしにきました。その男性は普段から公園や地域のごみをひろったりしている方です。同じマンションの人や、男性が清掃活動をしているところを見かけた人たちからはとても信頼されていました。

なので、私たちはそのことを男性にいうと高校生達を見た男性は、私たちのように恐れず高校生のもとに行きました。男性はいつものように優しい声で「ゴミを一緒にひろってほしいから遊具から降りてきてくれないか。」と言いました。男性はまったく怒っている様子を見せずにゴミをひろいはじめました。最初、高校生たちは驚いて男性のことを見ていたけど、男性の優しい声かけに心が動かされたように態度をかえて遊具からおりてきました。

高校生達は、相手が親身になっていることに感銘を受けたようにごみを拾いはじめました。男性はその間、「君たちの協力でこの場がもっと明るく、良くなる。」と高校生にいいながら清掃作業を行っていました。

数分後には、高校生たちはとても協力的になって周りのゴミをすべてきれいに片づけて、公園がいつものきれいな様子にもどりました。高校生たちは、最初の困惑したような表情とはちがい、すっきりとしたような表情になっていると私たちは感じました。そして、何よりも

公園がいつもより明るくなったように感じました。

この出来事から私は、一人の小さな注意や声かけでどれだけの大きな変化をもたらすのかを初めて実感しました。

男性が怒っている様子を一切見せずに、優しく接し、協力を求める言葉をかけたことで、高校生たちの態度がかわり清掃活動を行えたんだと思いました。ただ相手を責めるのではなく、相手を理解し、一緒に問題の解決に向かう姿勢が実際に変化をだすということを体験しました。

この体験を通して、日常の小さな行動が社会を明るくする力になると感じました。私も、自分にできることから始めていきたいです。また、男性のように相手に優しく接することで、相手の気持ちを動かし、協力を得られることを学びました。これからは、自分も積極的に行動し、地域などのためにできることを考えていきたいと思います。



【優秀賞】

中学生の部
福岡保護観察所長賞



社会を支える保護司の仕事

飯塚市立筑穂中学校 1年

田中ゆき

私は、この夏休みに「保護司」という仕事を初めて知りました。知るきっかけとなったのは、亡くなった曾祖父がその仕事をしていたと、家族から聞いたことです。私は、その保護司という仕事に興味を持ち、詳しく調べてみることにしました。

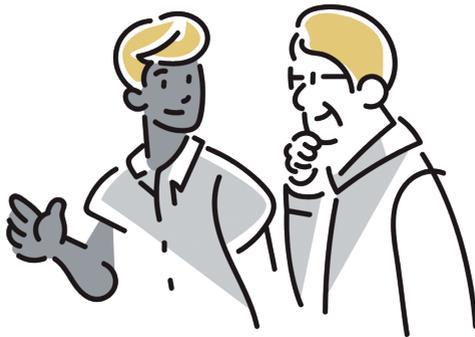
保護司とは、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを地域で支援する民間のボランティアです。なぜ支援が必要なのかというと、犯罪や非行により裁判所で何らかの処分を受けた人たちも、いずれは社会に戻ってきます。ですが、その時にいかに本人が反省していて、やり直そうと思っけていても、本人のハンディキャップや社会側から起こるバリアなど様々な要因により、社会の中に住まいや就職先などの居場所が見つからず、再犯や再非行へと至ってしまうことも少なくないからです。調べてみると、法務省が行った「受刑者に対する釈放時アンケート」では、「もう二度と犯罪はしない」と回答した人は約85パーセント、「出所後はきちんと仕事をして規則正しい生活を送りたい」と回答した人は約80パーセントに上っています。しかし、実際には、刑務所から出所しても、出所後五年以内で三人に一人が、十年以内では半数近くが刑務所に戻っているという現状があります。私はこのことを知って、刑務所から出所しても再犯や再非行をしてしまう人がとても多いことに驚きました。でも、私はそんな人の中にも、社会の中での自分の居場所があればこういう結果にはならなかった人も多いのではないかと思います。

地域で犯罪・非行が起こらないように、また過去に犯罪・非行をしてしまった人が再び社会復帰できるように保護司は活動しています。そんな保護司の具体的な活動を調べてみました。保護司の活動は、主

に二つに分けることができます。一つ目は、犯罪や非行をした人の立ち直りを助ける活動です。代表的な活動として、保護観察や矯正施設収容中の人の生活環境の調整があります。二つ目は、地域の方々に立ち直りについての理解と協力を求め、安心安全な地域づくりを行うための活動です。代表的な活動は、「社会を明るくする運動」を始めとする犯罪予防活動があります。このように、地域や人にとって大切な活動を保護司はしています。ですが、近年の保護司の人数は平成27年現在で、47,872人となっていて、近年は特に減少しているそうです。でも、その仕事は、みんなのためになくってはならない仕事だと思います。

そんな仕事に就いていた曾祖父は、とても素敵だなと思いました。それを支えていた家族にもたくさんの苦労があったと思います。家族みんなで支え合いながら頑張っていたのかなと感じました。

私は将来、学校の先生になりたいと考えています。曾祖父のことをきっかけに、また自分の将来について、考える機会になりました。社会を支える仕事はたくさんあります。その一つは、学校の先生ではないかと思います。今の自分にできることは限られているし、まだまだたくさん勉強しなければならないと思います。将来、社会の役に立てるような人になるために、いろいろなことを学び、これからも成長していきたいです。



【優秀賞】

中学生の部
福岡保護観察所長賞



私がいさつをする理由

柳川市立柳城中学校 3年

古川 礼奈

なぜいさつをしますか？といきなり尋ねられても明確な理由を答えられる人は少ないと思います。

「心があたたかくなるから」と、小学生の私なら答えていたと思います。でも、いつの間にかいさつをする理由は「しなきゃいけないから」や「大切だから」と簡単な理由に変わっていました。また、最近はいさつを返してもらえなかった時の気まずさや、人に声をかける緊張から、なんとなくいさつを避けてしまっていました。なので、いさつについてもう一度よく考えてみようと思いました。作文を書くなかで、いさつの持つ力に気がつきました。

私は、いさつには自分や相手を守り、大切にできる力があると考えています。

私がそう考えるようになったのにはいくつかのきっかけがあります。

一つは、「いさつは防犯だ」という言葉です。家族が見ていたテレビで「防犯」についての特集で専門家が言っていました。正直、そんな簡単に防犯ができるわけないと思いました。でも、「声をかけられると空き巣が犯行をためらう」というデータや「店員のいさつで万引きを諦める」という研究の結果に不思議と納得しました。空き巣や万引きをしようと思ったことはないけど、確かにいさつをされると見られている感じがして悪いことはできないなと思いました。いさつは相手の存在を認める一番小さな行動なのかもしれないと思いました。

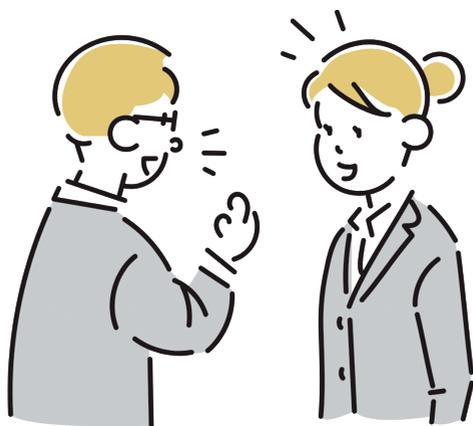
他にもいさつが大事だと感じたきっかけがあります。私は「いさつで心があたたかくなる」という言葉はなんとなくよく聞く気がします。でも、「ただいさつをするだけなのに心が温かくなると感じるのはなんで？」と、小学生の時には気にならなかった疑問が浮かんで

きました。

私が中学二年生の時の担任の先生が「あいさつには自分は敵じゃない、仲間だということをアピールする力がある」と教えてくれたことがありました。今の日本は自分が敵じゃないことを伝える必要はありません。でも、あいさつで「仲間だよ」と伝えることは、普段は恥ずかしくて言えないけど「友達だと思っている」と伝えられる、素敵なことだなと思いました。あいさつをすることで「私のことを信用してほしいし、あなたのことも信じているよ」という気持ちを無意識のうちに、伝えたり受け取ったりしていたのだと思いました。あいさつで心が温くなる理由が少し分かった気がしました。

あいさつには防犯という視点から「自分を守る力」、そして、相手に「大切に思っていると伝える力」があると考えます。

言葉は使い方を間違えると簡単に人を傷つけられる道具になります。でも、それと同じで一つの言葉が人を助けることもできると思います。言葉には自分や相手を守って、大切にできる力のあるものがたくさんあります。私はその一番簡単な形があいさつなのかなと思っています。だから私はこれからも「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「またね」と、あいさつを続けていきます。



【佳作】（小学生の部・順不同）

独りにさせない	福岡市立舞松原小学校	6年	新 むら	村	かん	な
信じてほしい	福岡市立千早西小学校	6年	藤 むら	村	あい	愛
受け入れられる社会へ	福岡市立舞松原小学校	6年	山 もと	本	ま	那
くらしやすい社会にするために	福岡市立当仁小学校	5年	敷 しき	地	ま	綾
再犯のない社会を目指して	福岡市立南当仁小学校	6年	青 あお	坂	さ	奈
周りの声を聞いてみよう	福岡市立南当仁小学校	6年	寺 てら	田	は	遥
知ることの大切さ	福岡市立西花畑小学校	5年	吉 よし	野	な	穂
勇気の水をそそぐ	福岡市立大楠小学校	6年	内 うち	田	お	亨
寄りそい	福岡市立横手小学校	6年	吉 よし	田	ひ	陽
人の心に寄りそって	福岡市立片江小学校	6年	森		あん	杏
その一言で未来が変わる	福岡市立別府小学校	6年	今 いま	中	ゆ	優
やさしい言葉であふれる世界	福岡市立田島小学校	5年	古 ふる	川	こ	梅
地域をよりよくするために	福岡市立高取小学校	6年	落 あち	合	け	い
人の気持ちについて考えることの大切さ	福岡市立原北小学校	6年	野 の	口	み	空
笑顔あふれる街づくり	福岡市立原小学校	6年	鳥 とり	本	すみ	那
勇気を持ってふみ出す一步	福岡市立姪浜小学校	6年	原 はら		ち	夢菜
「ふわふわ言葉」があふれる世界に	福岡市立姪浜小学校	6年	村 むら	上	ゆ	花
明るいニュース番組	福岡市立玄洋小学校	6年	宮 みや	本	あ	葵
社会を明るくするために	大野城市立大城小学校	6年	西 にし	原	こ	陽
社会を明るくするために	春日市立春日原小学校	6年	生 いく	鷲	り	子
話を聞こう、声をかけよう	那珂川市立安德北小学校	4年	栗 くり	崎	き	奈
私たちができること	朝倉市立立石小学校	6年	岩 いわ	下	る	那
「やさしさ」をつなげる	朝倉市立蜷城小学校	6年	坂 さか	口	の	彩
笑顔の力	東峰村立東峰小学校	6年	井 いの	上	う	椿
社会を明るくする仕事	須恵町立須恵第三小学校	6年	柴 しば	田	な	那
情けは人のためならず	粕屋町立粕屋西小学校	5年	石 いし	坂	ざ	依央莉

社会を明るくするために私達ができる事	宇美町立原田小学校	6年	せき の 野 美	ゆ 優
負のループにはまらないために	福津市立福岡南小学校	6年	なか 中 嶋	あおい 碧
心の境界線	宗像市立日の里東小学校	6年	ひさ 久 野	まさ 正 智
だれにでも親切に	宗像市立河東西小学校	6年	あ 阿 部	りん 凜 凜
一言の勇気で	水巻町立猪熊小学校	6年	しゅう 周 宣	せん 宣 銘
立ち直ろうとする人に寄りそう人がいる	岡垣町立山田小学校	6年	にし 西 岡	なつ 夏 那
社会を明るくする運動	北九州市立花尾小学校	5年	さ 佐 藤	しゅん 駿 之 介
「明るい未来のために」	北九州市立永犬丸小学校	6年	こ 古 賀	ひま 陽 莉
不安のないみんなが楽しい社会へ	北九州市立浅川小学校	6年	うえ 上 田	し 志 帆
夏休みのラジオ体そう	北九州市立藤木小学校	2年	くわ 桑 水 流	ゆみ 有 美 明
一人じゃない社会	北九州市立鴨生田小学校	6年	こ 古 賀	り 莉 愛
あいさつで広がるえがおのわ	北九州市立大谷小学校	3年	まつ 松 野	さく 咲 愛
笑顔を守るやさしい行動	北九州市立鞆ヶ谷小学校	6年	ふな 舟 橋	あや 彩 愛
ヘルプマーク	北九州市立鞆ヶ谷小学校	6年	ほり 堀 部	ゆ 結 愛
社会を明るくする運動は難しくない！！	北九州市立中井小学校	6年	さか 阪 本	なぎ 風 紗
犯罪と向きあって	北九州市立寿山小学校	6年	いし 石 川	ほの 穂 花
社会を照らす思いやり	北九州市立すがお小学校	6年	で 出 口	ま 真 子
一人一人がかん容な心を	北九州市立葛原小学校	6年	かね 金 子	あや 絢 音
勇気の連鎖	北九州市立田原小学校	6年	ふく 福 田	あや 絢 菜
小さなやさしさが築く、犯罪のない社会	北九州市立柄杓田小学校	6年	みや 三 山	ひろ 智 大
犯罪者のために	北九州市立松ヶ江北小学校	6年	ふじ 藤 本	もと 美 咲
犯罪、非行の少ない町にするために	北九州市立萩ヶ丘小学校	6年	きざ 櫻 井	い 井 詠 斗
普通とは	苅田町立馬場小学校	6年	ふか 深 島	しま 島 ひ なた
親切な心や気持ちをもって	苅田町立片島小学校	6年	はし 橋 詰	あゆ 歩 果
人とのつながり	苅田町立南原小学校	5年	みず 水 瀬	ひ 日 愛 向
犯罪や非行が少ない地域へ	築上町立築城小学校	6年	つつ 筒 井	くれ 来 は 羽
社会を明るくするために	築上町立築城小学校	6年	よし 吉 本	ほの 本 歩 華
社会を明るくする運動	豊前市立合岩小学校	6年	いま 今 村	りょう 遼 遼

「見て見ぬふり」の心
 社会を明るくするために
 更生保護から学んだこと
 心の花
 犯罪や非行を減らす
 出所者の自立
 犯罪者が復帰するには？
 犯罪をなくすには
 明るい社会になるために
 まずは自分の努力から
 安心できる場所
 当たり前をありがたいと
 青少年の明るい未来の為に
 未来に向けてできること
 明るい未来へ
 ありがとうの言葉でみんなを笑顔に
 人とインターネットの関わり方
 地域の方とのふれあい

川崎町立川崎小学校
 添田町立真木小学校
 直方市立新入小学校
 鞍手町立古月小学校
 飯塚市立大分小学校
 飯塚市立片島小学校
 飯塚市立飯塚東小学校
 久留米市立安武小学校
 久留米市立篠山小学校
 久留米市立水縄小学校
 うきは市立福富小学校
 うきは市立山春小学校
 大木町立大溝小学校
 大川市立木室小学校
 大牟田市立玉川小学校
 大牟田市立駛馬小学校
 八女市立川崎小学校
 八女市立黒木小学校

6年	もり盛	つぼ坪	り理	こ子
5年	みや宮	ぎ崎	たい泰	せい成
6年	まつ松	うら浦	つむぎ	
5年	た田	なか中	ゆづ柚	こ子
6年	はやし林		はんな卑	の奈
6年	さか阪	くち口	ま真	お生
6年	にし西	もり森	とも智	や弥
6年	さか境		み美	お緒
6年	たけ竹	した下	ゆ結	う菜
6年	た田	なか中	ゆ結	い唯
5年	こう江	だ田	ゆ結	こ子
6年	おお大	にし西	な菜	つき月
6年	にし西	だ田	り莉	こ心
6年	かき柿	ぞえ添	なぎさ	
5年	はた秦		み美	さき岬
5年	た田	なか中	うた詩	の乃
6年	すぎ杉	しま島	せい聖	や也
5年	い井	うえ上		ひかり



【佳作】（中学生の部・順不同）

輝く笑顔	福岡市立和白丘中学校	1年	とみ富	なが永	しゆ獅	う宇
明るい社会へつなげるために	福岡市立箱崎中学校	3年	た田	なか中	なか創	そう創
世の中を明るくする第一歩	福岡市立住吉中学校	2年	つ津	むら村	かい海	せい成
優しい世界になりますように	福岡市立住吉中学校	2年	たけの竹	のうち内	あや彩	の乃
相手の立場から	福岡市立板付中学校	2年	わた渡	なべ辺	ま真	い衣
林檎から考える再犯について	福岡市立警固中学校	2年	みず水	ぬま沼	り凛	り凛
孤独を感じさせない街へ	福岡市立警固中学校	2年	やま山	もと本	ひ陽	な菜
社会とつながる大切さ	福岡市立警固中学校	2年	な直	の野	あい愛	り里
繋がる	福岡市立花畑中学校	2年	や八	ひろ尋	ゆう悠	き紀
社会を明るくするには	福岡市立春吉中学校	2年	いぬ乾		はる遥	ひ陽
小さな「社会」の中で	福岡市立宮竹中学校	3年	しも下	べつ別	ぶ府	み美
明るい未来へ	福岡市立城南中学校	1年	いぬ犬	づか塚	る溜	り里
心からほっとできる場所	福岡市立城南中学校	1年	き佐	とう藤		い織
社会を明るくする運動	福岡市立金武中学校	2年	いし石	づか塚	ゆ結	い衣
出会いで変わる人生がある	福岡市立高取中学校	1年	いし石	い井	かな奏	え衣
明るい社会への「キッカケ」	福岡市立原中央中学校	1年	さい斉	とう藤	み未	ほ歩
人のために行動できる人	福岡市立壱岐丘中学校	2年	むら村	かみ上	はる晴	み美
非行を絶対したらダメ	福岡市立玄洋中学校	1年	まつ松	むら村	ま葉	ほ歩
「社会を明るくする運動」	福岡市立金武中学校	2年	たけ竹	はら原	とも輝	き輝
デジタルタトゥーと社会復帰	糸島市立前原東中学校	2年	は波	たえ多	江	りく陸
みんなでつくる、やさしい未来	糸島市立志摩中学校	1年	つづみ堤		こ心	まち町
「今の僕らにできること」	糸島市立二丈中学校	1年	かん甘	しゃ蔗	いっ一	しん心
「ばっちゃん」が教えてくれたこと	太宰府市立太宰府東中学校	3年	あ阿	ぜ世	ち知	れ怜
更生できる世の中	私立筑陽学園中学校	3年	ふる古	かわ川	み実	ゆ結
犯罪や非行のない明るい社会づくり	筑紫野市立天拝中学校	3年	よし吉	かい開		しん駿
犯罪といじめと暴言	朝倉市立杷木中学校	2年	お小	くら倉	もも	こ子

苦しむ人や悲しむ人をなくすために	朝倉市立南陵中学校	3年	矢野七都実
犯罪や非行のない社会をつくるために	筑前町立三輪中学校	2年	山口愛椎
「だからいじめはあってはいけない」	久山町立久山中学校	2年	江藤わこ
みんなで作る明るい社会	古賀市立古賀北中学校	3年	高柳愛衣
刑を終えて出所した人	篠栗町立篠栗中学校	2年	松本俐杏
当たり前のことを当たり前	宗像市立自由ヶ丘中学校	3年	山岡綺菜
社会復帰のために必要な人達	福岡県立宗像中学校	1年	嘉津楮平
より明るい社会へ	岡垣町立岡垣中学校	3年	荒牧存
空腹と非行	岡垣町立岡垣中学校	3年	田渕結衣
再犯率の低下を目指すために	中間市立中間中学校	2年	西川莉子
存在	北九州市立引野中学校	1年	中野心結
社会を明るくするために	北九州市立本城中学校	2年	中務杏胡
明るい社会を築くために	北九州市立本城中学校	3年	平川千尋
命を捧げた未来へ。	北九州市立石峯中学校	2年	吉竹あい奈
殺処分のない明るい社会を目指して	北九州市立二島中学校	3年	田中そうま真
社会を明るくするためには	北九州市立高須中学校	3年	田浦あさ輝人
犯罪のない地域社会づくり	北九州市立大谷中学校	1年	中河がわり璃々愛
罪を犯した人を受け入れる社会に	北九州市立板櫃中学校	1年	岸野の珠久
小さな一歩、その先に	北九州市立霧丘中学校	2年	ひろ瀬あまね音
出所者の現状と平和な日本	北九州市立篠崎中学校	3年	あんどうたけひで秀
周りの態度で変える	北九州市立南曾根中学校	3年	つるもとさ と
私達の未来を明るくするためには	北九州市立沼中学校	2年	うえだひなた陽
犯罪と非行の防止について	北九州市立早鞆中学校	1年	い井おすず鈴乃
刑を終えて出所した人や その家族に対しての提案書	北九州市立松ヶ江中学校	1年	まつむらみなみ
社会を明るくする	行橋市立泉中学校	2年	はしはらひなた
すべての人が安心できる場所へ	行橋市立中京中学校	1年	かつ勝もと佳那
保護司について	苅田町立苅田中学校	1年	しらすぎせい ら来

SNSと向き合う	豊前市立八屋中学校	3年	おいきゆい	木結衣
皆が過ごしやすい社会へ	豊前市立合岩中学校	3年	やまもとけい	山本慶人
孤立しないために	上毛町立上毛中学校	2年	やすい	安井桃花
すべての人が輝ける明るい社会を	田川市立田川東中学校	2年	あかがね	赤金咲空
障がいへの理解を深める	田川市立田川東中学校	2年	たかくら	高倉ゆの
挨拶がつなぐ温かい輪	糸田町立糸田中学校	2年	ふじもと	藤本じゆ珠
人のぬくもり	宮若市立宮若西中学校	1年	はなはい	花井すみれ
私たちにできること	小竹町立小竹中学校	3年	ひだか	日高らい
今の私達にできること	直方市立直方第一中学校	2年	やました	山下いくの
明るい社会をつくるためには	飯塚市立穂波西中学校	1年	かじわら	梶原いちか
社会の考え方	飯塚市立穂波西中学校	1年	せとぐち	瀬戸口まゆ
人との交流を増やし犯罪のない国へ	久留米市立宮ノ陣中学校	2年	こまつ	小松なほさ
平和な日本へ今できること	久留米市立諏訪中学校	3年	なかに	中尾ゆう
非行・犯罪の苦しみ	私立久留米信愛中学校	2年	うえの	野のまな
青少年プログラム	うきは市立吉井中学校	1年	いまむら	今村ふくすけ
少子高齢化	うきは市立浮羽中学校	2年	あだち	足立あや綾
夢	うきは市立浮羽中学校	3年	いさやま	諫山そういちろう
みんなで見守る	大川市立大川桐薫中学校	1年	はだま	葉玉せい
苦手なことをやってみて…	柳川市立柳城中学校	1年	さかぐち	坂口はる
いじめの怖さ	みやま市立高田中学校	3年	いのうえ	井上あん
無意識に出る言葉	私立大牟田中学校	3年	まつもと	松本かい
もう二度と失わないために	大牟田市立宅峰中学校	2年	まつおか	松岡あや
明るい社会	大牟田市立橘中学校	2年	いのがた	井形はや
刑務作業製品	福岡県立輝翔館中等教育学校	2年	ふくやま	福山みの
加害者の更生について	福岡県立輝翔館中等教育学校	3年	まつお	松尾ゆう
見てるだけ	筑後市立筑後北中学校	2年	なりきよ	成清あすみ

法務省保護局
公式 X (旧 Twitter)



法務省保護局
公式 Instagram



法務省
公式 Youtube チャンネル



社会を明るくする運動
ホームページ



第74回 “社会を明るくする運動” 作文コンテスト入賞作文集

令和7年2月発行

編集 第74回 “社会を明るくする運動” 福岡県推進委員会事務局
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目2番3号

制作 更生保護法人 福岡県更生保護協会

※本作文集の作品を転載する際には、「第74回 “社会を明るくする運動”
作文コンテスト入賞作文」であることを必ず明記してください。